

アッヴィ

シンガポールの生産施設を取得、アジアにおける生産能力をさらに拡大

November 28, 2014

米国イリノイ州ノースシカゴ（2014年11月21日） –アッヴィ（NYSEコード：ABBV）は、シンガポールのチュアス・バイオメディカル・パークに低分子の原薬（API）生産拠点を取得しました。本施設は、低分子および生物学的製剤の生産において世界的な事業を拡充し、当社の免疫領域およびオンコロジー領域のパイプラインに含まれる化合物の生産能力を向上させることとなります。今回の取得は、今年初旬に発表されたアジアにおける生産拠点への投資によるものです。

当社オペレーション担当シニア・バイスプレジデントのアジータ・サレキ・ゲルハルト（Ph.D.）は、次のように述べています。「シンガポール拠点は、当社の世界的な生産能力を強化するもので、柔軟性の高さや規模を誇っています。本施設は、免疫領域およびオンコロジー領域における新技術とパイプラインの成長を支援し、世界中の患者さんの満たされていない重要な医療ニーズへの対応を促すものです。」

アッヴィにとって初のアジア生産施設であるシンガポール工場は、約120,000平方メートルの敷地面積にAPI施設やその他の建物、付帯設備などを含まれます。このAPI施設は2016年までに全面稼働する見込みです。

今年2月に発表したとおり、アッヴィは同敷地内に生物学的製剤の原薬生産施設も建設し、2019年に稼働する予定です。また今回の施設建設を受けて、新たに250人以上の雇用が創出される見込みです。これらの雇用には生産、管理、品質、情報技術、サプライチェーンにおける熟練職も含まれます。現在は、低分子施設の改修と複数の職の募集が進められています。

シンガポール経済開発庁（EDB）のバイオメディカルサイエンスおよびコンシューマービジネス担当局長を務めるケビン・レイ氏は次のように述べています。「製薬企業がアジア地域全体における事業を調整および拡大するにあたり、シンガポールは中立的で信頼性の高い場所といえます。アッヴィのような企業に、シンガポールがアジアおよびその他の地域向けの高付加価値製品の開発・生産の場として選ばれることによって、生物学的製剤生産は今後も力強い成長が続くと考えています。」

当社は、アジア地域においては日本（東京）および中国（上海）の研究開発部門と、地域全体に展開する営業拠点を持っています。シンガポールでは営業、グローバル研究開発、および業務全般を担当する従業員を160人に増強しました。アッヴィは今年7月、シンガポールに新たな事業所も展開し、アジア地域の拠点としてのシンガポールでの影響力を着実に強めています。

当社の生産ネットワークは現在、米国、ヨーロッパ、アジア、プエルトリコの13拠点と、製造委託会社との戦略的提携によって構成されています。

アッヴィについて

アッヴィは、アボットラボラトリーズからの分社を経て2013年に設立された研究開発型のグローバルなバイオ医薬品企業です。最先端のバイオテクノロジーと長い歴史を誇る医薬品企業の専門知識と組織を兼ね備え、世界で最も複雑かつ深刻な疾患に対する先進的な治療薬を開発し、提供します。2014年現在、アッヴィは、世界で約25,000人を雇用し、170カ国以上で医薬品を販売しています。詳細はwww.abbvie.comをご覧ください。またTwitterにて@AbbVieをフォローまたはFacebookページをご参照ください。